

しゅうかくのうれしさ

山里小学校 三年 中村 蒼彩

私の家のごはんは、おじいちゃんおばあちゃんで作っています。いつもなくなりそうになるとせい米されて送ってくれます。この夏おじいちゃん家に行ってお米を作っているところを見てきました。思っていたよりも大人な作ぎようだと知りました。まえに、お米をとぐお手つだいをしたときに少しこぼしてしまい、お母さんに

「もったいないでしょ、大事にといで」と言われました。今回その意味が分かった気がしました。

おばあちゃんは田んぼをよく見に行っていました。今年は雨が少なかったためこまっています。天気予ほうをよく見ていました。お米作りは半年ぐらいの長い時間がかかるため、たねまきのころからしゅうかくまで温度や気温、天気などを気にしながら、育てているそうです。天気はわたしたちの力ではどうすることもで

きない。けれど、細かいお世話をすること  
り、ばなのお米になると思、たらとてもかがや  
いて見ええました。おばあちゃんはいねにおか  
つて、  
のどがかわいただろうな、がんばれ。  
と声をかけていました。

いねかりや田うえのときには、たく山の人  
がお手つだいに来てくれます。力仕事も多い  
ためつかれますが、しやうかくの時に、とれ  
たお米をていねいにかくにしながら、

→よし、よくできてる。

とおじいちゃんはおうれしそうな顔で言、てり  
ました。私はしやうかする時のふくろに名前  
のはんこをおしました。そのお米をたくさん  
の人が食べてくれるといいな。

そろそろ新米がとどく予定なので、ていね  
いにといで、たいておにぎりにして食べたい  
です。その時には広い田んぼのけしきが目に  
うかびそうです。みんなでがんばって作った  
お米はとてもおいしいだろうな。